

NEW COMMONS



使うほど、育つまち。

HARUMI FLAG 発、サステナビリティ コミュニティ

CONCEPT BOOK 2026.10



好きを話すことから、まちが育つ

01

好き・気になる

参加のきっかけは、
それだけでいい

02

話せる集まり

興味を話せる人が、
となりにいる

03

比べない

優劣をつけない。急
がない

04

まちに残る

好きが重なると、も
の・知恵・緑が残る

05

最後に、目的

続いた先に、こうな
っていただいたい

NEW COMMONS

使うほど、育つまち。

参加のきっかけは、

「好き」と
「気になる」。



だれかの役に立ちたい、より先に。直すのが好き、本が好き、植物が気になる。
それを話せる人がいる。それだけで、はじめていい。



「役に立ちたい」は疲れる。「好きを話す」は続く

「役に立ちたい」から始めると

- ・相手の評価で、気持ちが揺れる
- ・どこまでやっても、終わりが無い
- ・できる人と、できない人が生まれる

だんだん、疲れていく

「好きを話す」から始めると

- ・自分の中から、自然に湧いてくる
- ・話すだけで、もう楽しい
- ・人と比べなくていい

幸せが、続いていく

だれかの役に立つことは、目的ではなく、あとからついてくる結果でいい。



興味を話せる人の集まり

直すのが好き

本が好き

植物を育てたい

料理・保存食

写真・記録

子どもと遊ぶ

まちを歩く

古いものが好き

水辺が好き

片づけ・収納

防災が気になる

音楽が好き

あなたの「好き」は？

同じ興味の人 が 2人 いれば、それはもう集まり

テーマは決めない。メンバーの「好き」から増えていく



目的に向かいすぎると、見えなくなるもの

目的に向かいすぎると

視野が狭くなる

目的に合わない声が、聞こえなくなる

優劣が出てくる

できた人と、できない人に分かれてしまう



だから、NEW COMMONSでは

正解を決めない

話しながら、やりながら考える

人と比べない

好きの深さも、関わる時間も、人それぞれ

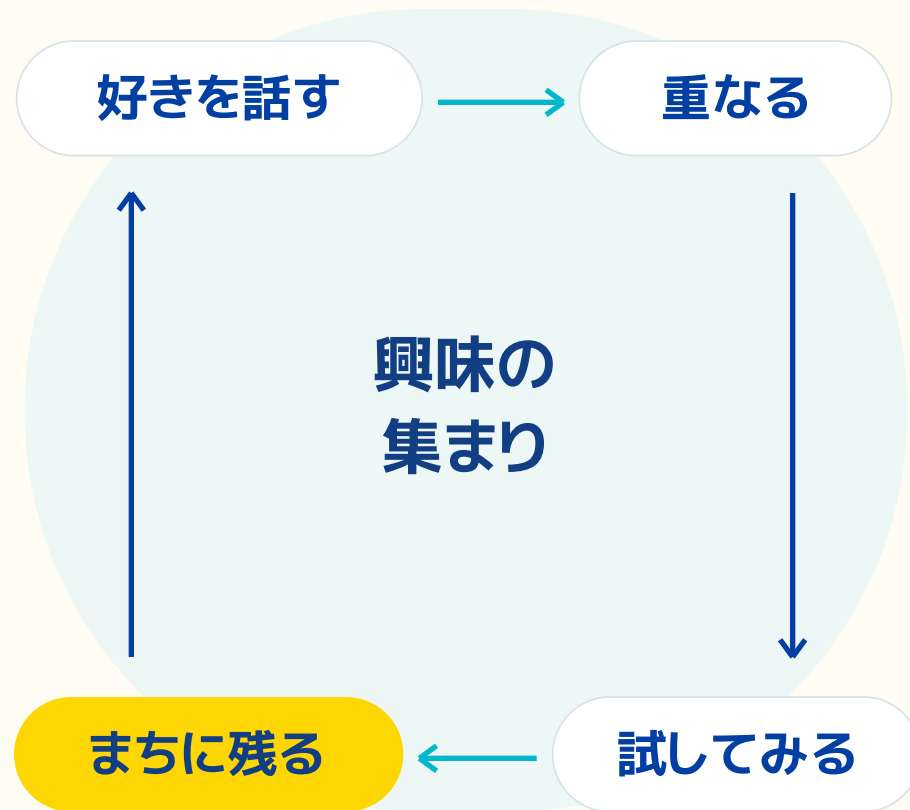
成果で、人を測らない

来てくれたことが、もう参加

目的は、最後にそっと置く。



好きを話すほど、まちが育つ



好きを話す

定例会やお茶会で、好きなこと・気になることを話す

重なる

同じ興味の人が見つかる。話が広がる

試してみる

「やってみようか」と、小さく試す

まちに残る

直したもの、分けた知恵、育てた縁が残る。それを、また話す



直すのが好きな人が集まると



※アイデアの例です。どれをやるかは、メンバーで決めます

親子の修理の時間

壊れたおもちゃや家具を持ち寄り、得意な人と一緒に直す。オランダ発の「リペアカフェ」に近い形

子ども服・おもちゃの交換会

サイズアウトしたものを、次の家族へ手わたす

防災グッズの持ち寄り点検

期限や使い方を、家族ぐるみで確かめ合う



本や知恵が好きな人が集まると



※アイデアの例です。どれをやるかは、メンバーで決めます

まちの本棚

読み終えた本を置いて、借りて、返す。本のそばで会話が生まれる

暮らしの知恵の持ち寄り会

保存食、省エネ、片づけ。得意なことを教え合う

子ども記者の「まちの先輩」取材

昔からの住人に、まちの話を聞いて伝える(学校と相談)



植物や外が好きな人が集まると



※アイデアの例です。どれをやるかは、メンバーで決めます

公園の緑の手入れ

区内で先に活動する住民の団体に学びながら、季節ごとに手をかける

水辺のごみ拾い

運河や晴海の水辺を歩きながら、親子で拾う

学校の花壇・菜園づくり

先生と相談し、授業の外で、先生の負担を増やさずに



「好き」との距離で、関わり方を選ぶ

そっと

どっぷり



のぞく

だれかの「好き」を、レポートでのぞいてみる

= 読む



持ち寄る

自分の「好き」を、お茶会や定例会に持っていく

= 参加する



のっかる

だれかの「好き」の企画に、のっかって手伝う

= 手伝う



はじめる

自分の「好き」を、仲間と小さな企画にする

= 企画する

どの距離でも、メンバー。日によって変わっても、いい。

立場をこえて話すための、ただひとつのこと

誰かの「好き」に、
興味を持てるか。

年齢も、経験も、肩書きも、住んだ年数も関係ない。

「そのの、どんなところが好き？」と聞けたら、もう同じテーブル。



経験は、相手を飛び越えるためでなく、支えるために

経験で相手を飛び越えると、場がこわれる。だれでもそうなりうると知っていることが、いちばんの予防です。

こんなとき、ひと呼吸

「前にやったけど、だめだった」と言いたくなったら



代わりに、こうする

まず「どうしてそう考えた?」と聞く

「ふつうは」「うちの会社では」と言いたくなったら



経験は「ひとつの例」として、短く話す

話の途中で、答えを出したくなったら



最後まで聞く。決めるのは、手を挙げた人



急がない。自分のペースで進む道のり

はじめは

話す・聞く

定例会やお茶会で、自分の好きを話し、だれかの好きを聞く

読む・参加する

なれてきたら

試す

先輩の企画を手伝い、小さな役割を担ってみる

+ 手伝う

やってみたくなったら

担う

自分の「好き」を、仲間と小さな企画にする

+ 企画する

新しい人が来たら

伝える

その人のとなりで、ここでの楽しみ方を伝える

+ 次の人に伝える

人と比べない。先に進んだ人が、えらいわけではない。とどまっても、戻ってもいい。

次へ進みたくなったら、自分で手を挙げて、定例会で伝える



集まりが続く、4つのコツ



小さく、 はじめる

2人の「好き」が重なれば、もう始めていい



正解を 決めない

話しながら、やりながら考える



がんばり すぎない

来られる人が、来られるときに



ひらいて おく

決めたことも、お金の流れも、見える形に

続けるコツは、がんばることより、楽しむこと。



迷ったら、まず「好き」に戻る

いちばん大事な問い

それは、だれかの「好き」から始まっている？

話していて、楽しいか。自分たちの興味から、始まっているか

そのうえで

だれかと比べていない？

優劣や競争に、なっていないか

そのうえで

無理なく続けられる？

だれか一人が、がんばりすぎていないか

たとえば

企業から「商品をPRしたい」と相談が来たら？ 宣伝だけならお断り。メンバーの「好き」と重なるなら、考えてみる



わたしの6つの約束

01

わたしは、 _____

02

わたしは、 _____

03

わたしは、 _____

04

わたしは、 _____

05

わたしは、 _____

06

わたしは、 _____

あなたは、どう考える？

ここは、あえて空けておきます。お茶会で、あなたの約束を聞かせてください。



最初の一步は、お茶会から

01

案内を受け取る

募集ページから登録。日程が決まったら、お知らせが届く

02

お茶会で話す

小さな顔合わせ。好きなことを、ひとつ話してみる

03

関わり方を選ぶ

読む・参加する・手伝う・企画する。話してから決められる

04

はじまりのお茶会

2027年2月。お茶を飲みながら、会のきまりと最初の企画を決める

募集ページ

newhero.or.jp/newcommons/



窓口は住人の団体、裏方はNEWHERO



住人への3つの約束

✓ 住人に、営業やノルマを課さない

✓ 個人情報は、企業に渡さない

✓ お金の流れとNEWHEROの取り分を、年1回公開



設立から1年目の動き

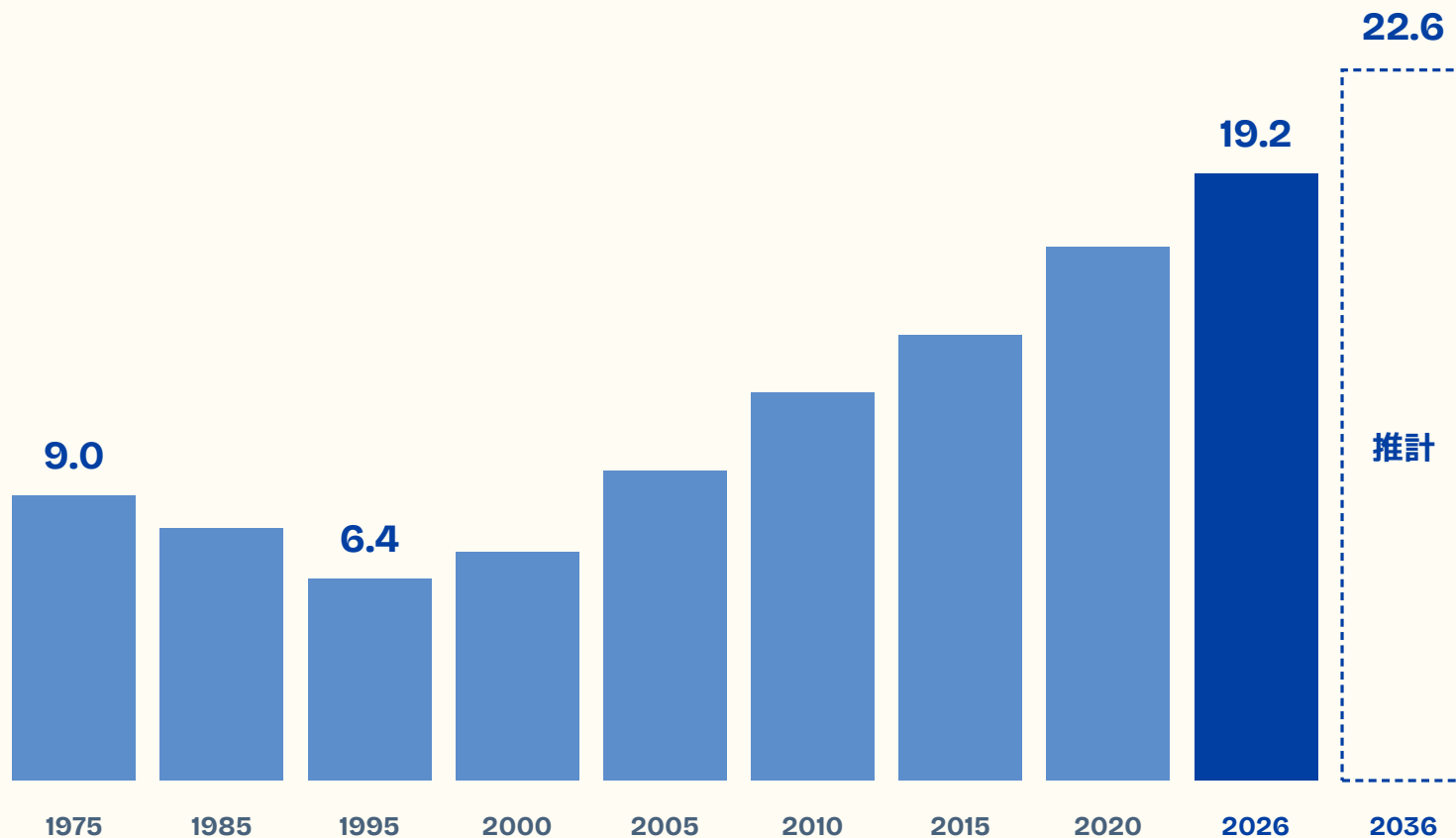
時期	26年11～12月	27年1月	27年2月	27年3～7月	27年8～10月	27年11月～
運営	募集ページを公開し、お茶会を案内	お茶会で、規約を説明	はじまりのお茶会	区の登録と、第1弾の企画	区の補助金を申請・夏の企画	1年のふり返りと、次のお茶会の準備
相手(住人)	案内を受け取る	お茶会で話す・規約を読む	はじまりのお茶会で入会	企画に参加する・企画を出す	夏の企画に、親子で参加	ふり返りで声を出し、次の企画へ

運営=NEW COMMONSのメンバーと事務局(NEWHO) 相手=入会を考えている住人・メンバー

※区の補助金は毎年8～10月に募集(上限30万円・費用の3/4)



30年で、中央区の人口は3倍に



中央区の人口(単位:万人)

1995年 → 2026年

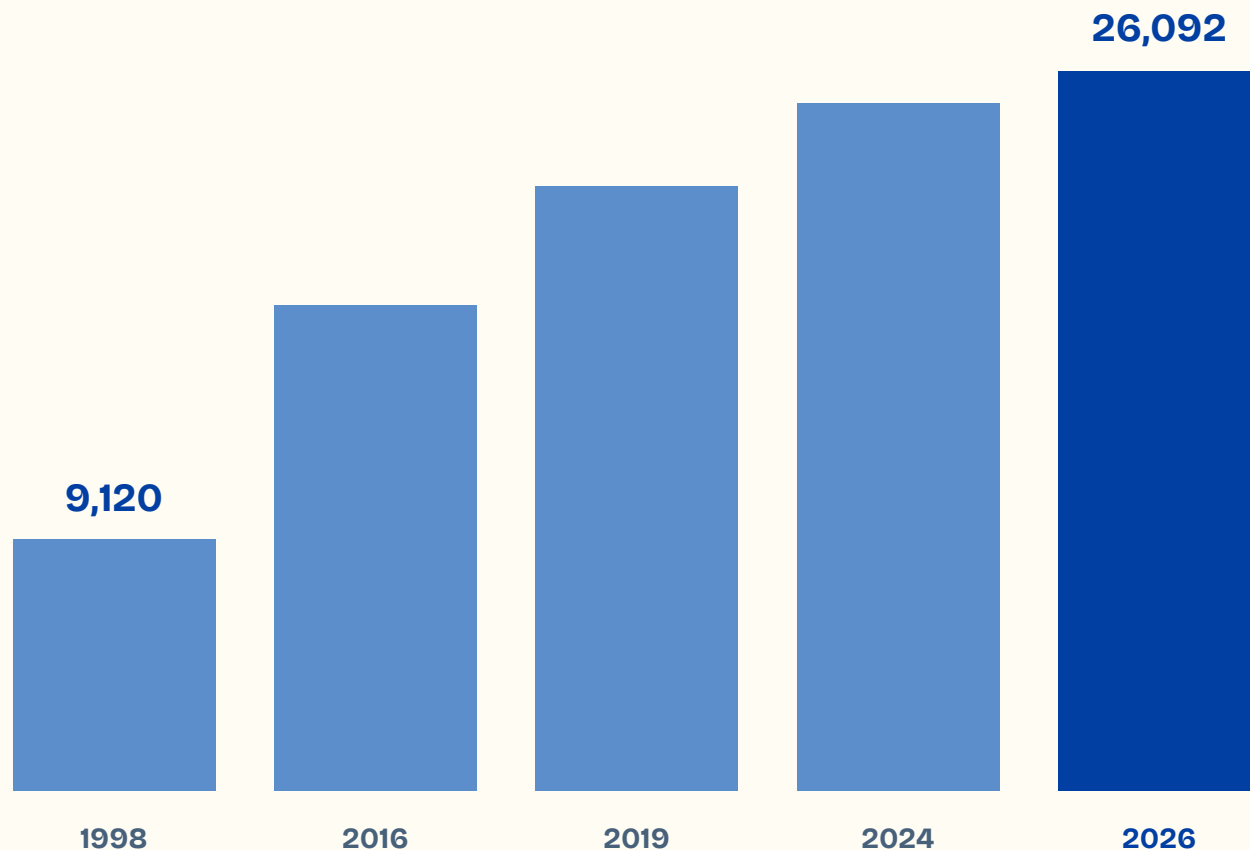
3.0 倍

63,923人から、192,221人へ

2027年度に、20万人を超える見込み

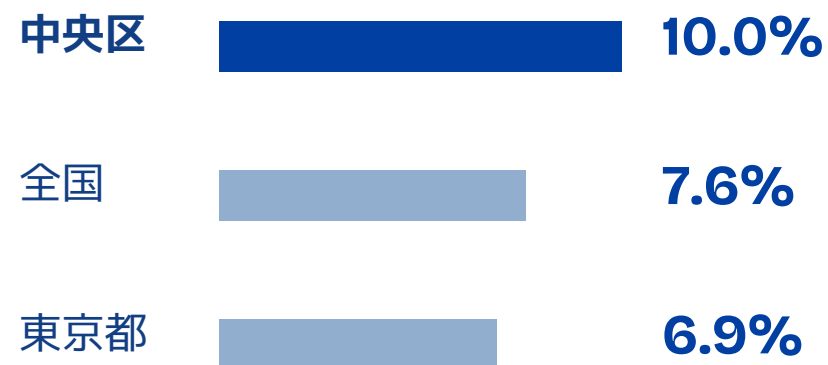


子どもは、28年で約2.9倍に



中央区の15歳未満の人口(単位:人)

6歳未満の子どもがいる世帯の割合



全国や東京都よりも、小さな子どもがいる家が多い



新しく来た人が多く、つながりは、これから

中央区に住んで、20年未満

68.4%



マンションやアパートなどに住む

87.2%



地域の活動に、参加したことがない

58.8%



地域の活動に参加しない理由(65歳以上の区民)

「きっかけがない」22.7% 「興味があるものがない」22.1%

だから、

「好き」をきっかけに。

新しいまちには、まだ 共有地の使い方が 決まっていない。

だから今なら、住人がつくれる。新しいまちと昔からのまちが
となりあう中央区で、その使い方を一緒に決めていく。





みんなのものを、使うほど育つ側へ

COMMONS(コモンズ)

みんなで使い、 手入れしてきた共有地

村の人たちが一緒に使い、守ってきた森や野原。日本では「入会地(いりあいち)」と呼ばれてきた。

NEW

新しいまちで、新しい関わり方に

ふつうの共有地は…

使うほど、減っていく

だれも手入れしなければ、共有地は荒れていく。「コモンズの悲劇」と呼ばれる(ハーディン、1968年)

NEW COMMONS は…

使うほど、育っていく

使う人たちがルールをつくり、手をかければ、共有地は続く。オストロムの研究(2009年ノーベル経済学賞)が示したこと

目的は、 あとからついてくる。

好きを話す人が集まり、
それが続いていた先に、
こうなっていたらいい。
ビジョンとミッションは、そんな「その先」の姿です。





子どもたちに、 育ったまちを手わたす。



「子どもたちに」

主役は次の世代。親子で参加できる
ことを、真ん中に置く

「育ったまちを」

新しいまちも、昔からのまちも。住人
が手をかけた分だけ、豊かになる

「手わたす」

人が替わっても続くように、やり方と
記録を残していく



暮らしの小さな実践を、 みんなで重ねる。

STEP 01

好きから

住人の「好き」や「やってみたい」を、小さな企画にする



STEP 02

みんなとつなぐ

学校・企業・区とつなぐ。調整は事務局のNEWHOEROが受け持つ



STEP 03

続く形にする

記録とふり返りを残し、次の人に手わたす

まずは、お茶会で お会いしましょう。

好きなことを、ひとつ話しに来てください。
それだけで、はじめの一步です。



募集ページ

newhero.or.jp/newcommons/

発起人・相談役

高島太士(HARUMI FLAG住人)

事務局

一般社団法人NEWHOERO